

【「大井手の楽校」“2016”第1回ワークショップを行いました】

中央区まちづくり事業、井手の魅力再発見「大井手の楽校」が始まりました。

熊本地震により地域への被害はありましたが、「大井手」については、被害も少なく農業用水路としての機能に影響はなかったようです。

今年もワークショップ開催にあたり、熊本大学の田中尚人准教授をファシリテーターに迎えて、「大井手を守る会」、託麻原小学校校長、熊本大学の学生、大井手の歴史遺産に関心のある方、熊本中央区総務企画課メンバーで大井手の魅力について話し合いました。

参加者からは、「大井手が無事でよかった」、「ホテルが無事だったことを知れて嬉しかった」などの話を聞くことができました。

ワークショップの状況については、「News Letter No.1」をご覧ください。

大井手の楽校 “2016” News Letter No.1

発行：平成28年10月1日



「大井手の楽校」とは？

大井手は、白川の水を渡鹿堰から取水し、市内中心部（渡鹿～新屋敷～九品寺）を流れる農業用水路です。その歴史は古く、今からおよそ400年前に治水・灌漑のために加藤清正によって造られたと言われており、現在も役割を変えずに使用されています。また、市内中心部の住宅街の中にある水辺と緑は、地方の方々によって大切に守られています。熊本市中央区のまちづくり事業「井手の魅力再発見事業」の1つとして、大井手をもっと良くしていくにはどうしたらいいのか、多くの人々に知ってもらうためには何ができるのかをみんなで考え、アイデアを出し合うことが、この「大井手の楽校」の目的です。

平成28年8月31日（水）18：00～19：30の1時間半、白川校区コミュニティセンターにて、「大井手の楽校」“2016”第1回ワークショップを行いました。その時の様子をご紹介します。



中央区まちづくり事業、井手の魅力再発見「大井手の楽校」が始まりました。熊本地震によって、地域への被害もかなりありましたが、幸いに「大井手」については、被害も最小に済み、農業用水路としての機能には影響なかったみたいです。

今年もワークショップ開催にあたり、熊本大学の田中尚人准教授をファシリテーター（進行役）に向えて、大井手の渡鹿地域から「大井手を守る会」、託麻原小学校の校長先生、大井手の歴史遺産に関心がある方などで、大井手の魅力について語ってもらいました。

参加者からは、大井手が無事でよかったやホテルが無事だったことを知れて嬉しかったなどを聞かれました。



大井手を楽しむ会情報 『大井手の楽校里川歩き』開催

日時：11月27日（日）午前9時～正午すぎ
※小雨決行、後日に参加報告会有り（自由参加）
対象：どなたでも（幼児～小学3年生は保護者同伴。）
定員：50名（先着順）
申込み：11月から電話で中央総務企画課へ



お問い合わせ

中央区総務企画課 電話：096（328）2610 FAX：096（355）4190
電子メール：chuousoumukikaku@city.kumamoto.lg.jp